



市町村のまちづくり

石岡駅周辺の機能強化と賑わいのある中心市街地の整備

石岡市都市建設部都市計画課 主幹 片岡 慎治

■背景と目的

石岡駅は、JR常磐線の起点である日暮里駅から約80キロメートルの場所にあり、特急を利用した場合には上野駅まで約1時間、水戸駅までは約20分の所要時間で行き来できる市を代表する駅です。

石岡駅周辺整備については、市の上位計画である「石岡市第一次総合計画」（平成19年度策定）や、都市計画に関しての方針を定めた「石岡市都市計画マスタープラン」（平成20年度策定）に盛り込まれるなど、長年にわたり解決すべき重要課題のひとつとして検討をしてきたところです。

課題としては、石岡駅利用者の多くが利用している西口駅前広場が狭く、特に朝夕や雨天時などは自動車交通が渋滞する状況でありました。また、東西自由通路や駅舎についても、バリアフリー化や耐震化など解決すべき課題が多く、駅周辺の機能改善については、市民からも早急な対応が求められていました。

そのような中、平成21年12月に中心市街地の活性化を目的とした「石岡市中心市街地活性化基本計画」が内閣総理大臣から認定され、石岡駅周辺整備事業についても同計画に位置付けられました。

これらを受け、市では、駅前の利便性・シンボル性を高め、安全で快適な、そして魅力と活力があふれる交通結節点を目指し、平成23年度から本格的に石岡駅周辺整備事業に着手してまいりました。

■主な事業メニューとスケジュール

○西口駅前広場

設計、整備工事：平成23年度～平成28年度

○東西自由通路

設計、整備工事：平成23年度～平成27年度

○BRTバスターミナル

設計、整備工事：平成23年度～平成28年度

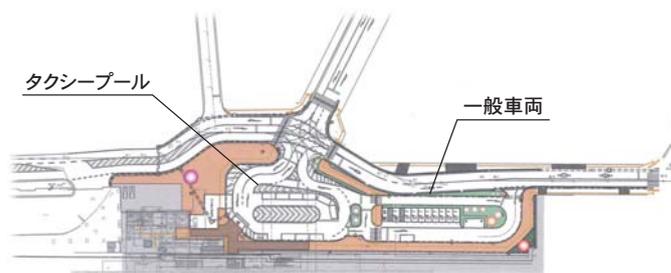
○石岡駅の橋上駅舎整備

設計、整備工事：平成23年度～平成27年度

■西口駅前広場について

西口駅前広場は、前述したとおり、狭あいで雨天時や朝夕の自動車交通の渋滞が激しく、交差点も変則的であ

りました。これらの問題を解決し、渋滞の解消や安全性を確保するため、都市計画の変更を行い、一般車両とタクシープールを分け、また交差点の改良等を行うこととしております。こちらは、平成29年3月の完了を目指し、整備を行っております。



西口駅前広場整備計画図

■東西自由通路について

JR常磐線を跨ぐ東西自由通路は、これまで屋根無型でバリアフリーにも対応していませんでした。新たな東西自由通路は、特殊街路として都市計画決定を行い、屋根を設けると共にエレベーターやエスカレーターを設置し、バリアフリー化を図りました（平成27年9月供用開始）。

さらに、橋上駅舎化と一体的に整備したことにより、これまで西口からしか入ることのできなかつた改札口に、東口からも入ることができるようになり、東口方面からの利用者が大幅に増加し、賑わいが創出されました。



新しい東西自由通路

■BRTバスターミナルについて

平成19年に廃線となった鹿島鉄道の跡地を利用した全国初の公設民営方式のBRT（バス専用道路）が、平成22年から運行され、このBRTの発着点となる専用駅前広場の整備を平成23年度から実施し、平成28年9月に供用開始されました。定時性・安全性・速達性を持った

BRTの機能が更に強化されたことにより、沿線住民や通勤通学者、茨城空港利用者への利便性も高まりました。



BRT専用駅前広場



西口に描かれた筑波山と霞ヶ浦の壁画（平成28年3月供用時）



東西自由通路に設置されたスタンドグラス

■石岡駅の橋上駅舎化について

新たな駅舎のデザインや橋上駅舎化を活用したまちづくりについては、学識経験者や関係機関等で構成された「石岡駅橋上化推進検討委員会」において議論を重ね、決定されました。また、公募型のワークショップや市民アンケートを実施することで、市民の意見をより反映することができ、同時に市のまちづくりに対する市民の熱い思いを感じることができました。

歴史を継承する意匠を用いた和モダンなデザイン



西口から見る新しい石岡駅（イメージ図）



西口の展示スペース（山車の展示）

■その他

駅周辺整備に伴う新たな機能として、「玄関口のシンボル機能」があげられます。そのひとつが西口に描かれた筑波山と霞ヶ浦の壁画です。これは市を代表する風景であり、他の駅にはない石岡駅ならではの特徴となっております。

また、東西自由通路には、地元ゆかりのある切り絵作家の原画を基に製作したスタンドグラスが設置され、郷愁を誘う鮮やかな作品が市民から好評を博しています。

さらに「市民の交流機能」の一環として、西口に展示スペース（市民文化伝承館）を設置いたしました。現在は、関東三大祭である「石岡のおまつり」において使用される地元の山車や幌獅子などが展示されており、市民交流の場や来訪者に向けた本市のPRの場として活用されています。

■今後の展開について

現在本市を含む多くの都市では、急速な人口減少と高齢化が進むことで、地域経済の衰退や都市の生活を支える機能の低下が懸念されており、コンパクトなまちづくりへの見直しが求められています。

このような中、多くの人々が利用する駅周辺は、都市活動の中心となる場所、都市の顔であることから、交通結節点の利便性を高めること以外にも、人々の交流や景観の面でも役割を果たすことが重要と考えています。

今回の駅周辺整備を通して、ハード面については概ね完了したと考えておりますが、ソフト面については、これから行政と市民、関係者等がそれぞれの役割分担のもと練り上げていかなければならないと感じています。引き続き、石岡らしい賑わいの創出や魅力づくりに向けて、取り組んでいきたいと思っております。